

王さまは、よせばいいのに、と言わないばかりに、ニタニタお笑いになって「それでは、こちらへおいでなさい。」とおっしゃりながら、王子を王女のお部屋へお連れになりました。王女はニコニコしながら出て来て、あいそうよく王子をむかえ入れました。王子は王女があんまり美しいので、目がくらんで、しばらくボンヤリ立ちつくしていました。王女は、「どうぞ。」と言って、一番きれいなイスのところへ連れていきました王さまは二人をそこに残して、あちらへ行っておしまいになりました。その間にブクブクは、そっと来て、王女のお部屋の外へしゃがみま

した。それといっしょに、ナガナガと火の目小ぞうとは、こっそりと外へまわって、お部屋のまどの下へかくれました。王女は王子に向かっていろんなお話をしました。王子はそのお相手をしながら、一生けん命に王女のそぶりに気をつけていましたするとやがて王女は、ふと話をやめてそのままだまってしまい、いつの間にかねむってしまいました。王子